

Japan Diabetes Society
Japan Association for Diabetes Education and Care



報道機関 各位

日本糖尿病学会・日本糖尿病協会 アドボカシー委員会設立
～糖尿病であることを隠さずにいられる社会づくりを目指して～

2019年11月8日

一般社団法人日本糖尿病学会

公益社団法人日本糖尿病協会

一般社団法人日本糖尿病学会（理事長：門脇孝／東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座 特任教授）と公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院 総長）は、糖尿病患者さんが疾患を理由に不利益を被ることなく、治療の継続により糖尿病のない人と変わらない生活を送ることができる社会環境を構築することを目指して、両会合同で「アドボカシー委員会」を設立することになりました。今後、各種調査・研究を実施し、エビデンスを集積することにより、社会の意識や仕組みを変革していきたいと考えています。

1. 糖尿病とスティグマ

スティグマは、特定の属性に対して刻まれる「負の烙印」という意味を持ち、誤った知識や情報が拡散することにより、対象となった者が精神的・物理的に困難な状況に陥ることを指します。

わが国では、予備群を含む糖尿病患者数は2,000万人となり、成人の4人に1人が関係する一般的な疾患となっていますが⁽¹⁾、患者さんを取り巻く人々が持つ知識は正確なものばかりではありません。近年、糖尿病治療は飛躍的に向上し、血糖コントロールを良好に保てば、健常者と変わらない生活を送ることができるにもかかわらず、古い情報に基づく判断により、必要なサービスが受けられない、就職や昇進に影響する、などの不利益を被るケースが報告されています。

こうしたスティグマを放置すると、患者さんは糖尿病であることを周囲に隠す→適切な治療の機会損失→重症化→医療費増→社会保障を脅かす、という悪循環に陥り、個から社会全体のレベルまで、様々な影響を及ぼすこととなります。

2. 医療情報の解釈

最近、我が国の統計で糖尿病患者の約70%は高齢者であり、患者の生命予後が著しく改善されていることが示唆されています。

しかるに、統計上の糖尿病患者さんにはHbA1cが非常に高い人から低い人までがすべて含まれるため、糖尿病をもつ人の寿命が非糖尿病患者より10年短い、など誤ったメッセージが発信されることが多くあります。また、糖尿病患者さんはがんや認知症も発症するリスクが高い、など糖尿病に起因する合併症の範囲が広がる傾向にありますが、それらは「併発症」の概念で説明できるものが多く、糖尿病治療の進歩により長寿の患者さん

PRESS RELEASE

が増加したことに起因しているのではないかと考えられます。

「正しい治療を適切に続ければ、一病息災で長寿を全うできる。血糖コントロールを適切に行うことで合併症発症を減らし、医療費削減にも貢献できる」ということを社会に発信し、患者さんが治療を継続できるような環境づくりを目指す必要があります。

3. 医療者にも求められる意識変革

合併症発症予防を目的とする治療中断阻止、受診勧奨など、これまでの糖尿病啓発では、合併症の恐ろしさを強調して患者さん自身の自覚を促す切り口が多く、患者さんの置かれた環境を理解し、それに基づく実行性の高い指導を行うという視点に乏しい面がありました。ネガティブな面を強調した情報が独り歩きすることにより、社会における糖尿病に対するスティグマが助長されてきた面も否めません。また、「糖尿病」という病名についても、排泄物の名がつく病名であることから、患者さんが病名により不利益を被る可能性があることにも思いをはせる必要があります。

このように、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は、糖尿病に対するスティグマを放置すると、糖尿病患者さんが社会活動で不利益を被るのみならず、治療に向かわなくなるという弊害をもたらすため、糖尿病であることを隠さずにいられる社会を作っていく必要性をあらためて認識しました。

こうした背景に基づき、今後、両会は、糖尿病の正しい理解を促進する活動を通じて、糖尿病があっても安心して社会生活を送り、人生100年時代の日本でいきいきと過ごすことができる社会形成を目指す活動（アドボカシー活動）を展開してまいります。

■一般社団法人 日本糖尿病学会について

日本糖尿病学会は、1957（昭和32）年の設立以来、糖尿病の成因と治療に関する学術研究活動を発展させると同時に、糖尿病の治療環境の向上を目指した活動を行っています。現在の会員は約18,000人。1989（平成元）年に開始した「糖尿病専門医」認定事業により、糖尿病治療の高度な知識と経験を持つ専門医が約5,500名誕生しています。

■公益社団法人 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病の正しい知識の普及啓発、患者及びその家族への療養指導、国民の糖尿病予防、健康増進への調査研究を行うことを目的に、1961（昭和36）年に結成されました。現在の会員数は、110,000人。糖尿病患者とその家族、医師、看護師・栄養士・糖尿病療養指導士などの医療スタッフおよび糖尿病に関心のある一般市民で構成されています。2013（平成25）年4月から公益社団法人になりました。

【出典】（1）平成28年度国民健康栄養調査 厚生労働省

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会

担当：堀田裕子

東京都千代田区麴町 2-2-4 8F

TEL：03-3514-1721

email：hotta@nittokyo.or.jp

一般社団法人日本糖尿病学会

担当：伊豫田敏宏

東京都文京区小石川 2-22-2 2F

TEL：03-3815-4364

email：jdstokyo@za2.so-net.ne.jp